

The social welfare in OSAKA



# 大阪の 社会福祉

2023年6月

817



社会福祉法 大阪市社会福祉協議会

<https://www.osaka-sishakyo.jp>



## 市社協に4月から新たな職員が仲間に加わりました♪

フレッシュな力で一生懸命がんばっていきますので、よろしくお願いします！



### HB

都会で暮らすか、田舎暮らしを選ぶか、迷うことがある。ご

近所に気を使いながら薪ストーブを燃やして、田舎暮らしへの欲求をごまかしている私▼大阪市内で飲食店を営んでいたNさんは、障がいのあることも成長を願って店を閉め、兵庫県豊岡市の山間部へ移住。母屋、離れ、蔵、作業小屋、倉庫に畑までついた1500坪の古民家を手に入れた▼改装して、こんな田舎に客が来るのかと思うような場所中華料理店を始めたのだ。しかし、SNSというのはすごい宣伝力を持っているのだと思い知らされた。開店から1年もたたないのに、列ができるほどの盛況▼店の繁盛も大切だが、障がい児に自然をとという目的も忘れてはならない。スキーやカヌーなど自然体験のインストラクターがいっぱいいる土地柄か、Nさんの熱意か、瞬間に仲間が集まって、「インクルー」という障がい者の自然体験を支援する一般社団法人が立ち上がった▼いい活動を自分のことだけにと思わなかった親の気持ち、たくさんの人に伝わった▼自然の中で食べる飛び切り辛いマーボー豆腐があまりにおいしかったので、私の気持ちは今、田舎暮らしに傾いている。(石)

# コロナ禍を乗り越えた地域の工夫を聞いてみました！

地域福祉活動は、地域住民同士の顔の見える関係づくりのうえで欠かせない活動です。しかしながら、令和2年以降、新型コロナウイルス感染症対策として3密を回避するために、活動の制限を余儀なくされました。

大阪市社協では、地域福祉活動の再開状況等を把握し、以後の活動についても考えをきっかけになることをめざして、令和3年10月から令和5年2月まで、各区社協の協力を得ながら市内の地域福祉活動の状況調査を実施し、報告書にまとめました（報告書の詳細は、令和5年5月号4、5面に掲載）。そのなかで、コロナ禍でもできるだけ活動を継続できるように形を変えるなど工夫を凝らしながら取り組まれていた事例を写真とともに掲載しました。報告書に掲載した2つの活動について、より詳しい内容をお伝えします。



報告書へのアクセスはこちらから



## 大正区 かもめの会

「男のたまり場 かもめの会」では、以前は料理をメインとした活動をしていましたが、コロナ禍で難しくなったため、メンバーみんなで相談して、ニュースポーツや地域散策に内容を変更して継続しています。月1回開催しており、地域の男性の居場所になっています。（報告書12ページ掲載）

### コロナ禍以前の取組みを教えてください

令和元年度に、高齢男性が近所同士で楽しみをもって過ごすことができる場として、「男のたまり場 かもめの会」がスタートしました。大正区社協が開催したうどん打ち教室をきっかけに集まった中泉尾地域在住の男性が月に1回集まり、お好み焼きやパスタなど料理を通じて活動していました。しかし、コロナ禍で料理を介して集まることは難しくなり、活動は休止していました。

### コロナ禍で活動を継続するための工夫やきっかけを教えてください

メンバーで月1回は会館で集まることは継続し、料理以外で安全に集まれる方法を話し合いました。メンバーで今できること・やりたいことを出し合ってもらい、区社協でも屋外でできる活動などを提案。その結果、意見の多かった内容からやってみることになりました。例えば、

公園までみんなで歩いてピクニックをしたり、歴史に詳しい方を呼んで近所の散策をしたりと、まずは外でできることから考えて活動していました。

感染症対策をしながら少しずつ活動の幅を広げ、現在は健康づくりを兼ねてポッチャやスカットボールなどのニュースポーツを老人福祉センターから用具を借りて楽しんだり、輪投げや紙飛行機とばし大会を開催するなど童心に帰って熱中しています。最近では社会見学に行きたいという意見から、阿倍野区の防災センターへ見学に行くなど区外へ活動の幅を広げています。コロナ禍が落ち着いたければ、料理の活動も再開していきたいと考えています。



▲コロナ禍でも活動できる工夫として、地域散策



▲健康づくりとして、ポッチャを楽しんでいる様子



▲コロナ禍前は料理活動も実施

### 区社協としての思いを教えてください

区内で唯一の男性だけで気兼ねなく集まれる場であり、発足当初は数人だったメンバーも現在では12人へ増加しています。コロナ禍でかたちを変えながら

の活動ではありませんが、地域の見守り推進員や地域包括支援センターの職員、料理の活動をしてきた際は地域の女性の会の方々も積極的に携わっていただいています。さまざまな立場の方から「見守られる」、そしてメンバーで集まることで楽しみながら「見守りあえる」場として継続できていると感じます。これからも、皆さんがやりたいことを出し合い、楽しく継続できるようにサポートしていきたいです。(大正区社協)

コロナ禍以前の取組みを教えてください

小路地域では、コロナ禍以前から小路小学校で月1回高齢者を対象としたサロンを開催しており、介護予防として体操した

例年、高齢者サロンで保育園との世代間交流をしていましたが、コロナ禍で対面することが難しくなってきたなかで、区社協に交流の仕方について相談があり、オンラインを通じて高齢者サロンと保育園をつないで、交流する機会としました。(報告書13ページ掲載)

り、認知症について学んだり、レクリエーションをしていきます。そのなかで、毎回近所の保育園児をサロンに招いて歌を披露してもらい、世代間交流をしていました。しかし、コロナ禍の影響により、一堂に会しての交流することが難しく、園児との交流は休止していました。

コロナ禍で活動を継続するための工夫やきっかけを教えてください

コロナ禍でもどうにか交流ができないか地域のなかで模索していた頃、福祉コーディネーター連絡会や地域活動者の会議を生野区社協が中心となり、オンラインで開催していただきました。その会議がきっかけとなり、参加していた福祉コーディネーターから、「園児との交流もオンラインでできないか」と生野区社協に相談がありました。地域の役員や専門職も一緒になって方法を考えながら、区社協が必要な機材を貸し出し、方法をお伝えしながらサポートしました。

当日、パソコンを会館のテレビに映し出し、保育園と地域の会館を地域のボランティアの方たちでつないでいただきました。また、保育園の先生1人に

会館へ来てもらい、画面を通して、会館側から園児に声をかけたことで、こどもたちも緊張をほぐしながら交流することができました。

その後も数回、オンラインで世代間交流を実施しました。最近では、感染状況をみながら、直接会館に来てもらい、世代間交流をしています。

オンラインで開催してみたいか教えてください

参加者からは、「離れた場所からでもこどもたちの歌を聞いて、こどもたちの笑顔を見ることができて元気が出た」という声がありました。



▲園児とオンラインで交流

区社協としての思いを教えてください

地域が、これまで作り上げてきた関係性があってこそその事例ですが、社協で取り組んだものをきっかけに地域の「できるかな?」の声から、新たな取組みにつながり嬉しく思います。今後も、地域の声を聞きながら、何かを取り組むきっかけづくりを支援していきたいと思えます。(生野区社協)



▲家でできる健康体操を体験

5月8日に新型コロナウイルス感染症は、2類相当から5類に移行しましたが、つながりづくりと感染リスクのジレンマはすぐに解消されるものではありません。また、コロナ禍の約3



▲認知症についての勉強会

年間を経て、一人ひとりが望むつながり方や、安心できる距離感も多様になっていると考えられます。

「感染対策やマスク着用についてどのように整理するか」「飲食を伴う活動の再開をどうするか」「長い間、中止・休止していた活動について、どのようにきっかけをつくることができるか」など、地域福祉活動に携わる方々のなかには、まだまだ迷いや戸惑いが多いことと思えます。

報告書や本誌記事等も活用していただき、市全体の状況や他区の事例を共有しながら、これからの活動について市・区社協、地域で一緒に考えていきたいと思います。

# 社協で働く私の仕事③



社会福祉協議会（略称・社協）は、社会福祉法に位置付けられた「地域福祉の推進」を目的とした民間団体として、さまざまな事業を展開しています。

例えば、地域での福祉活動の立上げや継続の支援、ボランティアの育成や、関係団体のネットワークづくり、生活にお困りの方への相談支援など、その役割は多岐にわたります。また、尽力されている地域活動者が主役となった地域福祉の推進をめざ

すことから、社協職員は「黒子」と表現されることもあり、その役割を一言で表すことはできません。

今回は、入職2年目と4年目、5年目の職員に大阪市社協を志したきっかけや、担当している仕事、そこに込める思いを聞きました。

※本記事は、4月27日に開催した市社協法人就職説明会の内容をもとに編集しています。本シリーズ①は令和4年6月号、②は令和4年10月号に掲載。

## 〈藤井さんの話〉

―具体的な仕事内容を教えてください。

地域包括支援センター業務を担当しています。高齢者の総合相談窓口として、ご本人や家族、近隣住民から相談を受け、どのように解決していくかを相談者と一緒に考えながら、必要に応じて関係機関や制度につなぎます。

介護保険制度に関する手続きや介護予防、認知症予防に関する取り組み、高齢になっても安心して暮らし続けることが



▲4月27日の法人就職説明会。対面とオンラインで開催



▲相談者の自宅に訪問する様子

まずは相談者の思いを受け止めて、共感することです。地域包括支援センターでは医療、介護、行政など、さまざまな職種との連携が必要です。区社協内においても、地域支援担当や生活支援コーディネーター、見守り相談室、あんしんさぽーと事業など、他部署の職員との連携が求められます。そのため、他

地域住民、ボランティア・市民活動団体、社会福祉法人、学識経験者など、多分野の方といういろいろな出会いがあります。はじめは、「何をしたらいいんだろう」と悩むこともありましたが、しかし、「なんでも自分らしいよ!」という言葉で自分



入職2年目

ふじい かずき  
藤井 和希さん  
西成区社会福祉協議会  
令和4年4月入職 地域包括支援センター

できるようにサポートしています。

―やりがいを感じたエピソードを教えてください。

「本当に助かりました!」という言葉を言っていただけな時です。

―一つのエピソードとして、「腰が痛くて動けない」と相談

があり、支援することになった介護保険未申請の高齢男性との関わりを紹介します。

受診が必要となりましたが、歩いて行くことが難しかったので、区社協の車椅子を自宅まで持っていく、病院に同行しました。状態

が悪かったため、そのまま入院となりましたが、本人が前向きな気持ちになるように、「元気になったらどこに行きたいか」や「退院して自宅に戻ったら、何がしたいか」などの話をしました。

会話を重ねたこともあり、病院の相談員から「藤井さんのおかげで本人もやる気を出してくれているので本当に助かっています」と言っていただけでした。そのように言ってもらえると、やりがいを感じます。

―働くうえで、大切にしていることを教えてください。

まずは相談者の思いを受け止めて、共感することです。地域包括支援センターでは医療、介護、行政など、さまざまな職種との連携が必要です。区社協内においても、地域支援担当や生活支援コーディネーター、見守り相談室、あんしんさぽーと事業など、他部署の職員との連携が求められます。そのため、他

部署の職員が普段どのような仕事をしているのかを把握するようになっています。

## 〈原さんの話〉

―社協職員を志したきっかけを教えてください。

就職先を決めるうえで、高齢・障がい・児童など、1つの分野に絞らずに、さまざまな人と関わる仕事がしたいと思ったからです。多岐にわたる地域の課題への対応や地域福祉を仕事にしたいと考え、社協で働きたいと思いました。

―具体的な仕事内容を教えてください。

地域支援を担当しています。決まったルーティンの仕事はほとんどなく、地域のニーズにあわせて課題解決のためにさまざまな方と連携しています。また、イレギュラーに発生する相談に臨機応変に対応し、さまざまな困りごとの解決に向けて取り組んでいます。仕事を一言で言う、「福祉のなんでも屋さん」です。

地域住民、ボランティア・市民活動団体、社会福祉法人、学識経験者など、多分野の方といういろいろな出会いがあります。はじめは、「何をしたらいいんだろう」と悩むこともありましたが、しかし、「なんでも自分らしいよ!」という言葉で自分

入職  
4年目



はら ゆみこ  
原 友美子さん  
生野区社会福祉協議会  
令和2年4月入職 地域支援担当

の得意なことを活かして、自分にしかできない支援の形を考えてみよう！と、新しい講座や方法を実践しています。

私が取り組んだことの1つに、「コロナ禍の影響により、希薄化した地域のつながりをいろんな人に課題と思っかけてほしい」と考えたことをきっかけに開催につながったイベントがあ



▲コミュニティ農園「結びファーム」で講座を開催

また、実際にいろいろな方と話して、時には叱られるなかで、多くのことを経験するなかで、社会福祉士とは、社協職員とは、地域支援とは、がわかる瞬間があります。いろいろな方に頼

ります。地域、ボランティア、外部のPフォーマンスやSDGsの取り組みを進める団体と一緒に考えました。地域の課題にあわせた企画立案から団体との調整、広報・周知など大変なことも多

る強みを一緒に確認する場となり「つながりはこの地域のなかにあるんだよ」とメッセージ性を発信できたイベントとなりました。

「やりがいを感じたエピソードを教えてください。」

なかなか再開できなかった地域行事に対して、私が企画したイベントを通して、「前向きに再開を検討したい！」と地域の方からもとても喜ばれたことです。地域の活力、モチベーションの向上を肌で感じることで、これが「地域支援」なんだと入社2年目にして実感することができました。

られて「地域支援ってこれやったよな！」となるのが私の今のやりがいです。

### 〈三木さんの話〉

「社協職員を志したきっかけを教えてください。」

地域福祉に携わりたいたいと思っていたからです。大阪市社協の説明会に参加した際に、自分がやりたいと思っていたことを楽しそうに話す先輩職員が印象的で、自分も一緒に働きたいと思ったのがきっかけです。

「具体的な仕事内容を教えてください。」

見守り相談室を担当しています。住民同士のつながりをつくり、地域における日頃の見守り活動を促進できるよう支援するとともに個別ケースにも対応しています。

大阪市の見守り相談室では主に3つの機能をもっています。1つ目が「地域の見守り活動への支援（要援護者名簿に係る同意確認、名簿整備を含む）、2つ目が「孤立世帯等への専門的支援（制度の狭間の困りごとを抱えた方や必要な支援につなぐ）がっていない方の相談対応」、3つ目が「認知症高齢者等の行方不明者の早期発見」です。

「社協の仕事の魅力を教えてください。」

さまざまな形、多くの「つな

入職  
5年目



みき かすみ  
三木 香澄さん  
浪速区社会福祉協議会  
平成31年4月入職 地域支援担当  
令和4年4月 見守り相談室

がり」を感じられることが一番の魅力です。

社協で働いていて、地域のつながり、住民同士のつながり、支援者のつながりなどさまざまな「つながり」を感じることができます。つながることで、笑顔になったり、ちよっと肩の力が抜けたり、よりよい支援につながったりすることから、日々「つながり」の大切さを実感しています。

見守り相談室では、人と人、人とサービスを新たに つなぐ役割を担っています。今つながっている人、まだつながっていない人、少しでも多くのつながりの輪が広がるよう努めています。と思います。

「やりがいを感じたエピソードを教えてください。」

各地域の町会長や民生委員・児童委員、女性部の方々と地域のなかの「気



▲見守りミニ講座を開催し、見守り活動のいろはを地域に伝えています

なる人、ほっておけない人」の情報を共有する地域見守り会議です。会議の打合せから当日の運営など、すべてに携わりました。区社協内だけでなく、区役所や地域と協働するため、調整や準備などがとても大変でした。しかし会議のなかで、参加者から「見守り活動って大切だな」といった声があり、見守り活動の重要性を感じていただけたことで、とてもやりがいを感じました。

ふれあいサロン立上げ  
レッツ・シング&ダンス住民の声を  
カタチに

住之江区粉浜にある住吉団地集会所で、4月26日にふれあいサロン「レッツ・シング&ダンス」（カラオケサロン）が開催されました。サロンは午前10時から正午までの2時間実施さ

れ、にぎわいました。

同団地では一人暮らしの高齢者が多く住んでいるため、自治会として顔の見える関係づくりが必要だと考え、以前からつながりづくりや健康づくりとして集会所で百歳体操を実施してきましたが、参加者が少ないという課題がありました。住民に



▲集まった参加者で和気あいあいとサロンを楽しみました

広く情報が届く仕組み、住民が参加したいと思う内容にする必要があると住吉団地自治会長の白柳和昭さん（しらやなぎかずあき）が中心となり、同団地においてアンケート調査を実施しました。会長が顔のつながっている住民から直接聞いた内容もふまえ、住吉団地自治会として、サロンの立上げに至りました。

団地の活動  
に参加して  
もらえる  
仕組みを  
考えて

当日は、参加者が話



▲写真中央が住吉団地自治会長の白柳和昭さん

しやすいようレイアウトを工夫しました。「参加者は何人来てくれるんだろう」「参加者同士でつながってくれるかな」と不安を抱え、参加者を待っていました。当日は雨にもかかわらず、12人の参加がありました。はじめは人前で歌うことへの恥ずかしさもあり、皆さん遠慮していましたが、時間が経つにつれて徐々に緊張がほぐれ、順番に楽しく歌っていました。参加者からは、「久しぶりにお腹から声をだして、リフレッシュできた」「カラオケだったらま

た参加したいと思った。次回が待ち遠しい」などの感想がありました。

白柳会長は「はじめは何人参加してくれるか不安だったが、予想していたよりも多く来てくれて良かったです。また、参加した皆さんが笑顔で楽しく過ごしてくれていたのです。今後も継続して、月1回開催していきたいです。団地に住んでいる、特に独居世帯の方が外出する機会になればと考えています。また、町会に加入している方が少ないので、今回のような内容を企画することで、町会に加入してもらい、さらにつながりづくりができるよう、はたらきかけていきたいとも考えています」と話しました。

ボランティア活動  
のきっかけづくり

今回のサロンには、団地の住民でボランティアとして参加されている方もいました。ボランティア側で参加された背景として、令和3年度に住之江区社協で「シニア世代の望む活躍と集いの場調査」として、区内在住の60歳以上の方1万人に対して、活躍の場や暮らしの困りごとなどについてアンケート調査をしました。そのアンケートの回答

で、ボランティア活動を希望していた方に、今回のサロンの立上げからボランティアをしていただけないかと連絡し、打合せの段階からの参加へとつなげました。

団地内の住民全員に直接情報を伝えたいという思いから、「集合ポストは見えない」、「それなら、玄関ドアのポストにチラシを投函してはどうか」という声があがり、約1300ある全戸の玄関ポストへの配付をボランティアが担当しました。また、当日の設営や受付などでも活躍しました。

つながりを広げて  
いくために

サロン立上げに携わった区社協・第1層生活支援コーディネーターの谷口文香さんは「今回の実施には、地域包括支援センターや民生委員・児童委員にも協力いただきました。これまでも同じ団地内に住みながらも関わりがなかった住民の方がボランティアとして新たにつながれたことは大きな意義があると感じています。今後、サロンが団地内での新たなコミュニティの場として定着し、住民同士とつながれるよう、引き続き住民の皆さんと一緒に作りあげていきたいと思います」と話しました。

此花区  
区社協×団体×企業との連携  
ユニバーサル・スタジオリヂャパン  
「サンクス・ラブ・マンス」イベント



感謝の気持ちを伝えるサポート

5月10日、大阪市舞洲障がい者スポーツセンター「アミティ舞洲」で、同センターを活動拠点としているフライングディスク舞洲倶楽部のメンバーにユニバーサル・スタジオリヂャパン（USJ）が、USJオリジナルのメッセージカード「サンクス・ラブ・カード」を渡しました。



▲USJクルーからカードを贈呈

「この取組みは、USJが6月18日まで期間限定で開催中のイベント「サンクス・ラブ・マンス」イベントに先駆け、「普段照れくさくて、なかなか伝えられない、身近な人への感謝の言葉を伝えるお手伝いをしたい」との思いで企画したものです。「世代を問わず、自分たちが

日頃言えない感謝の言葉



▲アミティ舞洲の職員からも「いつもありがとうございます」とカードをお渡し

当日はUSJクルーからあいさつがあった後、参加者は受け取ったカードに、その場で感謝したい人に向け、思い思いの言

い」と考え、カードの配布を地元の此花区でおこないました。手書きのメッセージを添えることで、周りの人に日頃の感謝の気持ちを伝えて区内で笑顔になる人を増やしていくという取組みの趣旨に共感した此花区社協が調整役となり、此花区社会福祉施設や区内のこどもの居場所活動に取り組み団体などに、カードとステッカーを配ることになりました。



▲日頃なかなか言えないありがとうを娘さんに伝える

此花区社協・地域支援担当係長の辻としみさんは「カードやステッカーと一緒に企業の思いも各施設やこどもの居場所などへ届け、身近な人に感謝の気持ちを伝えるいい機会としてもらいたいです。また、カードを渡す際に団体さんとゆっくり話を

風をよむ  
認知症における  
経済支援を考える

大阪公立大学 大学院 生活科学研究科 講師 杉山 京

認知症のある人が住み慣れた地域で生活し続けるためには、多くの医療・介護サービスが必要となる。しかし、それらの諸サービスの利用に伴う費用負担は、国の財政状況に影響を受けながら増加の一途をたどっており、このことが認知症のある人や家族の大きな負担となっている。

ためには、まず経済基盤の確保が大切である。経済問題に対する支援は、生活が困窮した後に介入が行われる傾向が多いように見受けられるが、困窮しないように、鑑別診断後から活用できる社会保障制度もある。それらを適切に利用することができれば、危機状況の発生を予防することは不可能ではないと考える。しかし残念ながら、認知症のある人や家族の話を聴くと、それらがあまりにも知らされていない、活用されていない実情がある。

認知症のある人への必要なサービスの利用が制限されることにより引き起こされる最も悲しい結末として、虐待や介護殺人、介護心中がある。この引き金として、サービス利用に伴う支出増や収入減が、家族介護者を追い詰めてしまっている。そのため、認知症のある人が安心して生活するためにも、経済的問題にも着目したシームレスな支援が欠かせない。

参考書籍：竹本与志人（2020）「認知症のある人への経済支援」法律文化社



福祉の取組み発信サイト  
 「ふくしる大阪」開設

市社協では、大阪市内の地域福祉活動、社協活動などを発信するサイトとして、新たに「ふくしる大阪」を開設しました。  
 本誌掲載記事をはじめ、社協の動き、市内各地の活動など、「大阪の福祉の取組みを知る」ための情報を、社協職員の視点で発信していきますので、ぜひご覧ください！



<https://www.osaka-sishakyo.jp/project/fukushiru/>



- ▶ 検索サイトで「ふくしる大阪」と検索
- ▶ 市社協ホームページの「バナー」「新着情報」からもアクセス可
- ▶ スマホで閲覧の方は右のコードをカメラで読み取ってください



▲左から市社協 総務課 植岡大登、地域福祉課 門脇健太 (ともに令和5年4月新規採用)

大阪市内の魅力的な地域福祉活動や社協活動をたくさん発信していきます！豊富なカテゴリで関心のある活動を見つけやすくなっています！幅広いふくしを知る、つながる、一歩踏み出すきっかけになるようがんばります！



※このサイトは令和4年度大阪府福祉基金地域福祉振興助成金を活用して作成しました。

立ちどまらない保険。  
**MS&AD 三井住友海上**

三井住友海上の安心

**GK**

クルマの保険 家財の保険 火災の保険

www.ms-ins.com

大阪の社会福祉に名刺広告を掲載してみませんか？

本誌に掲載する名刺広告について、暑中名刺広告(8月号に掲載)・新春名刺広告(1月号に掲載)のほか、毎月発行号でも随時受け付けています。月1回28,000部を発行し、地域活動者、社会福祉に関心のある方を中心に配付しています。

掲載希望月の2か月前までに、お問合せください。  
 主な設置・配付場所は、各区社会福祉協議会、各区老人福祉センター、各区子ども・子育てプラザ、大阪市役所、各区役所、各区図書館、各区民センター、地域の会館、市内の市立小中学校などです。

詳細はこちらから  
<https://www.osaka-sishakyo.jp/advertisement/>

問合せ先 **大阪市社会福祉協議会 地域福祉課**  
**TEL:06-6765-5606**